

小学校 言語障害特別支援学級 自立活動学習指導案

1 題材名 「キ」をつかったことばあそびをしよう

2 題材について

(1) 題材観

1学期終了後、専門機関との連携を図り、言語聴覚士から今後の指導について助言をいただいた。児童Aは補聴器を装用することで、日常会話はほぼ聞き取れる聴力があり、正誤音の聞き分けもできているため、鼻咽腔構音の原因は、難聴によるものよりも、構音方法の未理解、舌の誤学習によるものの方が大きいとのことであった。そのため、今後は、呼気を口腔から出す動作の定着を図るために、「ブローアクション学習」（吹く学習）を意識的に取り入れながら、Aが取り組みやすい音に絞り、正しい構音方法の獲得を図っていくことにした。

本題材で取り上げる「キ」音を、Aは鼻咽腔構音になつたり「チ」音に置換したりしてしまう。しかし、「キ」以外の力行音は正しく発音できているので、そこから正しい音を誘導しやすいのではないかと考えた。

(2) 児童の題材における実態

本学級に在籍しているAは、先天性両感音難聴である。聴力は、右耳が50 dB、左耳が91 dB程度であるが、右耳は補聴器を装用することで20～40 dB程度になり、静かな環境で正面から聞けば、通常の会話はほぼ理解し、交流学級の児童と一緒に行動することができる。語音弁別では、集団行動の中でいろいろな音が混ざった状態で聞くと、口形が似ている音は聞き誤ることもある。しかし、個別学習では単音での50音は正しく弁別できる。発音は、イ列音・ウ列音が、難聴児によく見られる息が鼻から抜けた音「鼻咽腔構音」になる。

本校入学前は、ことばの教室に通級し、「ウ」「イ」「サ」行音を練習してきた。「ウ」「イ」については、短文レベルで正しく発音できるようになった。

本校入学後、1学期は、前年からの継続指導で「サ」行音を中心とした発音指導（単語レベル→文章レベル）を行い、「シ」以外の音は会話レベルでも正しく発音できるようになった。鼻咽腔構音になっていた「シ」も、息が鼻から抜けてしまうこともあるが、言い直しをさせることで自己修正することができるようになってきている。また、「チ」は正しく発音することができる。

(3) 指導にあたって

指導にあたっては、「ブローアクション学習」では、Aが興味・関心をもち、意欲的に取り組める教材を取り入れ、楽しく活動する中で、呼気を口腔から出す動作の定着を図りたい。「キ」音の正しい構音方法（奥舌を軟口蓋につつながりながら発音する）については、口腔模型で視覚化して説明したり、言語化（キーワード）して説明したりすることで、正しい構音方法を理解できるようにする。また、ICレコーダーを活用し、Aが正しく発音した音をフィードバックできるようにすることで、成功体験・達成感を味わえるようにして、「キ」音の正しい発音の定着を図り、交流学級に戻った時に、自信をもって話すことができるよう支援していきたい。

3 児童の実態と個別目標

<題材における実態>

○きこえについて

- ・先天性両感音難聴
- ・右50 dB (補聴器装用時20～40 dB) 左91 dB

○知能検査結果

- ・田中ビネーV I QOO
- ・WPPSI検査 V IQOO P IQOO F IQOO
- ・S-M社会生活能力検査 SAOO SQOO

○発音について

- ・イ列音・ウ列音が鼻咽腔構音になる。
- ・「キ・ギ」が「チ・ヂ」に置換することがある。

○専門機関との連携

専門機関との連携を図り、言語聴覚士から今後の指導について助言をいただいた。Aは補聴器を装用することで、日常会話はほぼ聞き取れる聴力があり、正誤音の聞き分けもできている。そのため、鼻咽腔構音の原因は、

難聴によるものよりも、構音方法の未理解、舌の誤学習によるものの方が大きいとのことであった。今後は、呼気を口腔から出す動作の定着を図るために、「ブローイング学習」（吹く学習）を意識的に取り入れながら、Aが取り組みやすい音に絞り、正しい構音方法の獲得を図っていくことにした。

○音の焦点化「キ」

- ・「キ」音を、Aは鼻咽腔構音になつたり「チ」音に置換したりしてしまう。しかし、「キ」以外の力行音は正しく発音できているので、そこから正しい音を誘導していく。
- ・「カ」行音は、構音発達基準が3歳であり、発達上比較的早い段階で獲得しやすい音である。

<題材における目標>

○強弱をつけて呼気を口腔から出すことができる。【6-(2)】

○口形と舌の形を意識して、「キ」音を単語レベルで正しく発音することができる。【6-(2)】

○ゲームを取り入れることで、話をする楽しさを知り、意欲的に取り組むことができる。【6-(1)】

4 指導計画と評価 (20時間扱い)

第1次 舌の運動をしよう (平らな舌つくり) 2時間

第2次 単音で発音できるようにしよう 5時間

第3次 「キ」のつく言葉を練習しよう 13時間

時	主な学習内容・活動	評価
1~3	<ul style="list-style-type: none"> ・ブローイングの練習をする。（強く吹く） ・「キ」+母音、母音+「キ」の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○強い呼気を口腔から出すことができる。（発音時の様子の観察）【6-(2)】 ○正しい口形と舌の形で無意味音節「キ」+母音を発音することができる。（発音時の様子の観察）【6-(2)】
4~8 (本時は7)	<ul style="list-style-type: none"> ・ブローイングの練習をする。（強弱をつける） ・「キ」+子音、子音+「キ」の練習をする。 ・ことば遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○強弱をつけて呼気を口腔から出すことができる。（発音時の様子の観察）【6-(2)】 ○口形と舌の形を意識して無意味音節「キ」+子音を正しく発音することができる。（発音時の様子の観察）【6-(2)】 ○正しく発音する活動や言葉遊びに意欲的に取り組むことができる。（発音時の様子の観察）【6-(1)】
7~13	<ul style="list-style-type: none"> ・ブローイングの練習をする。（弱く長く） ・「キ」のつく単語で練習する。 ・ことば遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長く弱く呼気を口腔から出すことができる。（発音時の様子の観察）【6-(2)】 ○口形と舌の形を意識して意識して、「キ」音を単語レベルで正しく発音することができる。（発音時の様子の観察）【6-(2)】 ○正しく発音する活動や言葉遊びに意欲的に取り組むことができる。（発音時の様子の観察）【6-(1)】

5 本時の指導

(1) 実態及び個別目標

	実態	目標
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ブローイング学習を通して、口から息を出したり吸ったりすることができるようになった。息の強弱や長短等を意識して吹くことができるようになってきた。 ・「キ」単音では、正しく発音できるようになってきた。無意味音節「キ」+子音では、子音がイ列音だと鼻咽腔構音になりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ブローイングの学習を通して、強弱をつけて呼気を口腔から出すことができる。【6-(2)】 ○口形と舌の形を意識して「キ」+無意味音節を発音することができる。【6-(2)】 ○ことば遊びを通して、正しく発音する活動に意欲的に取り組むことができる。【6-(1)】

(2) 準備・資料

鏡、口の体操カード、たまごボーロ、舌圧子、口腔模型、ワークシート、ホワイトボード、ブローイング教材、I C レコーダー

(3) 展開

時間	学習内容・活動	教師の指導・支援と評価 (◎評価)
2	<p>1 あいさつをする。</p> <p>2 本時の学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・カレンダー・天気・予定 ◎「キ」を正しくはつおんしよう ◎「キ」をつかったことばあそびをしよう ・口の体操 ・吹く練習 ・発音の練習「キ」 ・はつおんビンゴゲーム </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を正しくして、元気よくあいさつするように言葉かけをする。 ・あいさつや会話をする中で、Aの状態を観察する。 ・ホワイトボードに本時の流れを提示し、学習課題や内容を知らせることで、見通しをもって最後まで意欲的に取り組めるようする。【2-(2)】 ・各学習に入るときは、Aが学習課題を読むようにすることで、話す機会を多く持つようする。【6-(2)】 ・ゆっくりとした発話速度で話すことを心がける。【6-(2)】 ・安心し、リラックスできる雰囲気づくりに心がける。【2-(2)】 ・Aからの話しかけや関わりに受容的に応じるようにする。【6-(2)】

3	<p>3 口の体操をする。</p> <p>(1) 母音の練習 (2) 舌の運動 前後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡を使うことで、自分の口の動きと手本の口の動きを見比べながら取り組めるように促す。【4-(2)】 ・指を使って数を数えることで、見通しをもって意欲的に取り組むことができるようになる。【4-(2)】 ・たまごボーロを奥舌の上に乗せ、軟口蓋につけてつぶすようすることで、「力」行音の構音方法で使う舌の動きを誘導する。 【6-(1)】 ・Aの取り組みを言語化しモニタリングして認めたり、賞賛したりすることで支持していく。【6-(1)】
7	<p>4 吹く練習をしよう。</p> <p>(1) 球吹き (2) 鉄棒くん</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「球吹き」「鉄棒くん」等の教材を通して、口から強く息を出すことを意識できるようになる。【6-(1)】 ・「速い回転」「遅い回転」等の言葉を言いながら手本を示すことで、吹く息の強弱の違いを意識できるようになる。【6-(1)】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>◎強弱をつけて呼気を口腔から出すことができたか。 (発音時の様子の観察、教材の回転数)</p> </div>
18	<p>5 発音の練習をする。</p> <p>(1) 「力」行音の発音の仕方を確認する。 (2) カ, ク, ケ, コの練習 (3) 「キ」音の練習 (4) 「キ」ばかり言葉 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前の音数を「キ」だけで言う。 ・「キ」だけであいさつする。等 (5) 無意味音節の練習 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート 「キ」+子音 「子音」+「キ」 「子音」+「キ」+「子音」 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「力」行音の構音方法を口腔模型も使って視覚的に理解できるようになる。【4-(2)】 ・「舌の奥を上にかけて言う」「口から息を出す」のように言語化して、提示することで構音方法を理解できるようになる。【4-(2)】 ・鼻に抜ける音になってしまふ時は、鼻孔を閉じて発音したり、「口から出すよ」と言葉かけをしたりして、口から息を出す感覚を確認してから、再度「キ」に近づけていくようになる。【6-(1)】 ・日常生活に出てくる音を「キ」に置き換えて発音することで、楽しみながら練習できるようになる。【6-(1)】 ・無意味音節のワークシートでは、Aが知っている言葉を書けるようにして、A自身が練習問題を作ることで、意欲的に取り組めるようになる。【6-(2)】 ・ICレコーダーを使い、正しく発音した音をAにフィードバックして、達成感を味わえるようになる。【4-(2)】 ・正しく発音できた時は、大いに賞賛し自信をもてるようになる。 【6-(1)】 ・練習した発音の仕方を意識して取り組むことを確認する。 【6-(1)】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>◎口形と舌の形を意識して無意味音節「キ」+子音を正しく発音できたか。 (発音時の様子の観察・ICレコーダー)</p> </div>
12	<p>6 ことば遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キ」が入った言葉bingoゲームをする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>※少しでも話し方に工夫が見られた時には認め、声を出す楽しさを感じられるようになる。【6-(1)】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>◎ことば遊びを通して、正しく発音する活動に意欲的に取り組むことができたか。 (発音時の様子の観察)</p> </div>
3	<p>7 本時を振り返り、次時の学習について知る。</p> <p>8 あいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りでは、Aが発言する機会を作ったり、がんばりを賞賛し認めたりすることで次時の意欲につなげる。